

金子耕式の **その12** ファミリートーク

北海道と沖縄県にて好評放送中!!



■上手な叱り方

先日、大きな本屋さんに入った時、仕事柄、つい育児書のコーナーで足が止まりました。そこにはずらりと子育ての本が並んでいましたが、しばらく眺めているうちに「叱らない子育て」という題の本が目が留まりました。

手に取って中身を読むうちに、著者の考え方が見えてきました。どうやら、本人が子ども時代に厳しく叱られたために、その反動として、何が何でも叱るべきでないという考えを持つに至ったようです。

確かに、著者の経験から親たちは大いに学ぶべきところはあります。いくら子どものためを思って叱っても、その叱り方を間違えたら、子どもは心を深く傷つけられ、最悪の場合、自分は親から愛されていないと感じるからです。

それでは、仮に子どもが友だちのオモチャを横取りしても、親のお財布から勝手にお金を抜き取っても、あるいは、家の中ではサッカーボールを蹴らないと約束させておいたのに、留守中に約束を破ってガラスを割っても、叱ってはいけないのでしょうか。そんなことはありません。問題は叱り方です。

「バカだな! 何度言ったら分かるんだ!」と言ったら、してしまったことを反省させるのではなく、その子の人格そのものを否定してしまうことになりません。

こんな時は、冷静にその子の両肩に手を載せて、子どもの視線にまで姿勢を低くして、こう言えはいいのです。

「さあ、どうしてガラスが割れたのかな? そう、約束を破ってボールを蹴ったからだ。それじゃ、まず謝らなきゃいけないね。さあ、パパと一緒にガラスを片付けよう。掃除機を持っておいで」
こんな叱り方をすれば、人格を傷つけることなく子どもを指導することができます。

■感情的な叱り方をした後は

家事に追われ、しかも共働きをしながら子育てをしているお母さんたちの疲れやストレスは、並大抵のものではありません。そのため、ついイライラして、ちよつとしたことで子どもを感情的に叱ってしまう、そのことで悩んでいるお母さんたちが沢山います。

買い物から帰って来たら、午前中につつかく掃除をしたりリビングで、お父さんがボール紙とハサミや糊で工作をしていました。

「まったく、いい加減にしてちょうだい! 天気がいいんだから外で遊びなさい!」

こんなふうに、子どもを感情的に叱りつけたら、もちろん子どもにとつてはショックなことです。

でも、人には限界というものがあるし、イライラしたり落ち込んだりするときもあります。そもそも、いつも冷静でいられる完璧な親などいません。また、いくらとりつくろったところで、自分の弱さや欠点は、毎日一緒に生活している家族には隠しようがありません。

家族に贈る
とっておきの話
Vol.3



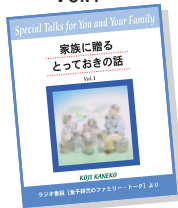
四六版変形上製本
149P
●定価 1,575 円

家族に贈る
とっておきの話
Vol.2



四六版変形上製本
148P
●定価 1,575 円

家族に贈る
とっておきの話
Vol.1



四六版変形上製本
151P
●定価 1,575 円

だから、失敗した時には冷静になつてから、お子さんになぜイライラしてしまつたのかを正直に話したうえで、「ごめんね」と言うことのほうが大切です。
良い子育ては、よい親子の人間関係の上に成り立ちます。そして、良い人間関係には正直さや自分の非を認めることや赦し合うことが必要です。

「お母さん、今日は朝からものすごく忙しかったの。それなのに鍵をなくしたり、料理しても焦がしちゃったりして失敗ばかり。だから、ついイライラして、いきなりひどいこと言っちゃったの。ごめんね」
そう言われて、親子関係が壊れることはありません。かえって、『お母さんは毎日大変なんだ』と、お母さんの苦勞を察するようになるはずですよ。

ラジオ番組「金子耕式のファミリートーク」を編集したコラム集。FFJのスタッフが元アナウンサーの金子耕氏が自らの子育て経験を交え、日本の現状とニーズに合わせたショートメッセージをお届けします。